

教養コース ② ことば表現 「楽しい文章教室」
“読ませるエッセイ”の書き方

第1回

エッセイとはなにか
(エッセイの文章と小説の文章)
読者に「読ませる文章」を書くには

期 日 平成30年6月9日(土) 午前10時～12時

講 師 永杉徹夫氏(元毎日新聞社編集委員エッセイスト)

会 場 ピアザ☆ふじみ

第41期(30年度)の文章教室講座では「読ませるエッセイ・書き方」をテーマに5回講座であります。

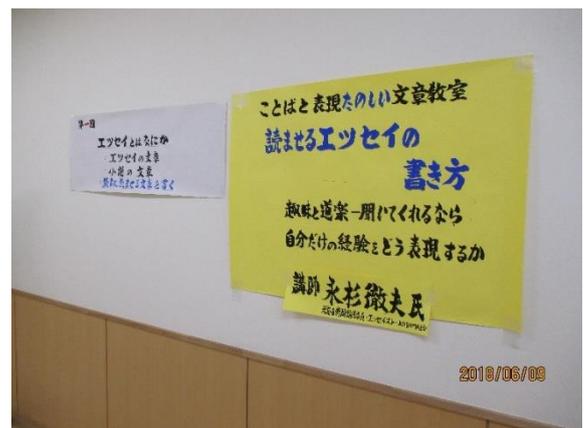
初めての受講生もあり、担当理事から名前、住まいなどの紹介要請があり、受講生の交流につながった。

具体的には、自分だけの経験を、どう表現すれば他人(読者)の共感を得られるか?

表現効果を考えながら「読ませるエッセイ」の技法を習得する。

6月9日(土)第1回の講座では、エッセイ文章と小説文章の違い、また、読ませる文章を書くために?有名人の文章資料を教本に学習し考えながら、永杉先生の2時間にわたる講義であった。

芥川賞受賞(第115回)された「川上弘美氏」の“万歩計”と言うテーマでのエッセイ文章を永杉先生の読みで勉強した。携帯万歩計による散歩、自ら



の散歩中であまりにも波のある歩数、一日、80歩の時、一万五千歩の日もあるが、一つの健康法と受け止め、自分を正当化しながら、散歩を楽しむエッセイである。

その他に「藤沢周平氏」「外山滋比古氏」のエッセイを紹介していただいた。文書の評価は、書き出し、最後の締め文書で決まるとの事であり「サスペンス」などは、読者の想像を誘い人気あるとの事であった。

- ・文は人なり ・エッセイは人なり
- ・小説は、文章を人がつくるもの
- ・エッセイは、事実をそのままに書くもの
- ・エッセイは、のんびり、楽しく書きたいもの

永杉先生の著者には【心に動揺を】【童心は老いず一詩人の風貌】などがある。

